

[町史編さん室] 経営計画書（総括表）

■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	H30 年度計画額（単位：千円）		H30 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職 員	臨時職員
1	町史編纂事業	B	448	0	1	0
合 計			0	0	1	1

■特記事項

- ①上記の表の職員は、編さん室次長。
- ②上記の表以外の職員として
 - (1) 室長は、生涯教育部長が兼務。
 - (2) 生涯学習課の主任、図書館の主任に兼務辞令が出ており、編さん業務の一部を担っている。

事業別経営計画書【B】

■基礎情報

所属名	町史編さん室	No.	1
事業名	町史編さん事業		
総合計画の体系	基本目標	4	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する
	基本施策	1	生涯学習の推進
目的	町民の協力を得ながら、「先人の暮らし＝郷土の歴史と民俗」を調査・研究し、詳細な記録保存をして子孫に伝え残すとともに、郷土史の研究に資することを目的とする。		
事務内容	<p>・昭和10年刊行の『大口村誌』と昭和57年刊行の『大口町史』を参照しつつ、原始から戦中を序章とし、戦後から現在に至るまでの『大口町史～現代史編～』を令和4年3月までに刊行する。</p> <p>① 3カ月に1度の間隔で勉強会を行う中で、興味を持ってくれた人で徐々にワーキンググループの陣容を固めていき、年度末には原稿の振り分けをする。</p> <p>② 記載すべき項目を決めて、目次化する。</p> <p>③ 資料収集・整理する。</p>		
現在における経過又は課題	<p>① 昨年度計画では、古代から現代までの『大口町史』を作る予定であったが、時間的制約により、当初から主目標としていた現代史を中心に『大口町史～現代史編～』を作る。</p> <p>② 町史編さん講座をできるだけ実施できるようなテーマと準備が課題。</p> <p>③ 主任2名に「広報おおぐち」と「中日新聞」からリスト作りをさせているが、完成予定がどんどん後になりつつある。監修者とも相談して、最終期限を決める。</p> <p>④ 4月現在で監修者から依頼されている資料の作成一覧</p> <p>a) 3部門に分けた年表の作成（作成途中）。</p> <p>b) 愛知県図書館、愛知県公文書館、国立公文書館、国会図書館のホームページから大口関連の書類・書籍のリスト化・出力。</p> <p>c) 昭和20年代から53年までの新聞記事（大口関連）のリスト化。</p> <p>d) 施政方針、予算・決算の概要（議事録等参照）</p> <p>e) リスト化したものも書類・書籍の関連部分のコピー</p> <p>f) 人物のリスト化（大口の現代史に欠かせない人、話をうかがうべき人）</p> <p>〈完了したもの〉町内永年保存簿冊リスト、大口町立図書館郷土資料リスト</p>		
平成30年度の目標又は改善策	<p>① ワーキンググループの陣容を固めていき、年度末には原稿の振り分けをする。</p> <p>② 資料収集、資料のリストづくり、資料の整理</p> <p>③ 記載すべき項目を決めて、目次化する。</p>		

■作業工程（当該年度）

月	作業内容
	<p>毎月、監修者と打ち合わせ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集状況等の確認 <p>町史編さん講座（勉強会の開催：3カ月に1度を目安）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者からも、情報を得る。 ・回を重ねることで、ワーキング・グループへの参加者を増やしていく。 <p>年度末までに、記載すべき項目を決めて目次化し、どの項目をどなたが担当するのか決める。</p>

□3年間の目標

目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ 					
項目（単位）	H27 計画	H27 実績	H28 計画	H29 目標	H30 目標	H31 目標

□2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
H31 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・
H32 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・

■事業コスト

		単位	H28 年度決算額	H29 年度当初予算額	H30 年度計画額
事業費		千円	0	0	448
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	0	0	1
	臨時職員	人工	0	0	0
	計	人工	0	0	1

■平成 30 年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

■平成 30 年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容

■特記事項

--

■目標又は改善策に対する取組内容

基礎資料の作成

- ・「広報おおぐち」昭和40年から平成30年までの目次のエクセルデータ化を完成
- ・「中日新聞」県内版・近郊版・尾張版から大口町関連の記事（昭和54年～平成30年）を拾い出してエクセルデータ化及び記事紙面の画像データ化を完成
- ・新聞の各年の十大ニュースのエクセルデータ化（昭和37年～平成30年）を完成
- ・『愛知県統計年鑑』『愛知県農林水産統計書』『国勢調査報告書』から、大口町関連の主だった各種統計データをエクセルによりデータ化

町史編さん講座の開催

- ・2か月に1度（5月、7月、9月、11月、1月、3月）、計6回の開催

開催日	内容
第1回(30.5.13)	現代史とは
第2回(30.7.15)	戦後以降の大口の歴史
第3回(30.9.9)	戦後の愛知県政と大口の歩み
第4回(30.11.18)	大口の生き物、日記を読み解く
第5回(31.1.20)	地名のいわれ、日記を読み解く
第6回(31.3.16)	人物伝、日記を読み解く

聞き取り調査の実施

- ・8人、1団体から聞き取り調査を実施

編集委員会準備会議の開催（12月から3月の間で月1回開催）

- ・講座及び聞き取り調査に熱心であった人に集まっていただき、新しい町史の目次案を作成

■評価

- ・基礎資料の作成については、「広報おおぐち」の目次化、大口町関連の新聞記事の拾い出しを計画どおり進めることができた。また、各種統計データをエクセルデータ化できた。これにより、全体の4割程度の項目をこれらのデータを使って、本文を作成することができる見通しがついた。また、年表作成の基礎データとしても活用することができる。調査協力員として、お手伝いいただいた町民の方のお力によるところが大きい。なお、今後は、目次に則した資料収集を急いで集める必要がある。
- ・町内在住の方から、父親が書いた昭和3年から昭和51年までの日記を貸し出してもよいとの申し出があり、これを借用することになった。急ぎ返却すべく写真撮影、出力作業に集中をした。撮影枚数は9千枚近くにのぼり、その出力作業を含め2か月半を要した。その分、愛知県公文書館での資料調査が平成31年度にずれ込んだが、お借りした日記には、その時々世相や大口の様子、戦争を挟んだ意識の変化など、実に多くの情報を得られる貴重な資料となることが徐々にわかってきた。結果として、監修の先生が自らこの日記を資料として、戦中から戦後にかけての大口の様子を執筆する方向で検討いただけることになった。
- ・町史編さん講座を2か月に1回、定期的に行うことができたので、興味のあるテーマの時だけ受講する方もあったが、毎回楽しみにして受講される方もあり、貴重なご意見をいただく場面も多かった。今後は、本文作成に際し、成果を発表し受講者からご意見・ご指摘をいただく場としていく。
- ・熱心な講座受講者や情報提供者に恵まれ、この方々に集まっていただき平成31年4月から編集委員会委員になっていただくことを前提に編集委員会準備会議を開催し、ご意見を集約しながら目次の案の作成作業を進めることができ、町民参加の町史づくりという面では理想的な展開となった。